

大妻タイムズ

OTSUMA TIMES

CONTENTS

交流協定	1
地域との交流	2
令和4年度プロジェクト始動	3
地域連携活動	4

交流協定

北海道美瑛町との包括連携に関する協定を締結

大妻女子大学は、2022年5月25日付で、北海道美瑛町と包括連携に関する協定を締結しました。

同町は家政学部児童臨床研究センターが2018年度から小学生を引率して実施している自然観察キャンプの開催場所になっています。また、本学独自の課題解決型授業「キャリア・ディベロップメント・プログラム (CDP)」の提携先 (2019・2021年度) として学生たちが「美瑛町ファン倍増計画」といった課題に取り組むなど関係を深めてきました。

本協定は、本学と同町が包括的な連携のもと相互に協力し、地域社会の発展、教育の振興および人材育成などに寄与することを目的としており、今後も同町との連携をさらに深めてまいります。



左から美瑛町長・角和浩幸氏、伊藤正直学長

北海道美瑛町との協定締結について 家政学部 児童学科 教授 石井 雅幸

三番町アダプト事業のフラワーロードの会参加者である(株)プランナー・ワールド代表の古本勝美氏(美瑛町出身)の紹介で、2017年に北海道美瑛町とのつながりが始まりました。

かねてから児童臨床研究センターで行ってきた地域の子どもを対象とした自然観察を伴う宿泊事業の一つとして、2018年度から自然体験事業を美瑛町で展開しています。また、美瑛町の町長の角和浩幸氏をはじめ職員の方々や、東京美瑛会の方々が来校され、全学共通科目のキャリア・ディベロップメント・プログラム (CDP) の授業に参加し、学生支援活動を行いました。

美瑛町は、北海道内屈指の農業振興、福祉行政、特別支援教育を充実させるなど数々の地方行政の実績があります。この実績と本学の総合大学としての力を合わせた取り組みが、美瑛町および本学のさらなる発展に寄与する可能性を考え、今回の協定に至りました。

今後は、これまでの取り組みに加えて、美瑛町内公立学校への特別支援を目的とした学生派遣事業や、美瑛町の子どもたちが東京に来て、東京の子どもたちと交流しながら学びを深める場をつくることを検討しています。また福祉事業、農業など、美瑛町の産業に本学の学生や教員が関与していけるコンテンツを探っています。



地域との交流

「大妻女子大学パイプオルガンコンサート2022」を開催

地域連携推進センターの主催で「大妻女子大学パイプオルガンコンサート2022」を6月4日(土)に大妻講堂で開催しました。

演奏に先立ち、伊藤正直理事長・学長が「今回のコンサートは3年ぶり、クラシックに加え、日本の歌曲が演奏されるので楽しみにしてほしい。また、演奏者からの希望でウクライナ人道支援を目的として開催しているので、ぜひ寄付にご協力いただきたい」と挨拶しました。

今回演奏したのは、「世界最高の音楽性を持ったオルガニスト」と評価されるドイツ人のDr.エルンスト・エーリヒ・シュテンダー氏。バッハの名曲作品のほか、日本でもポピュラーな「荒城の月」や「翼をください」など全11曲に加え、アンコールで大妻学院校歌をパイプオルガンで披露しました。来場者からは「音の強弱のつけ方と盛り上げ方がとても迫力があって見事だった」「パイプオルガンの音色がとても素晴らしかった」「世界

一のオルガニストの演奏を聴くことができ幸せな気持ちになった」などの感想が寄せられました。

演奏終了後は、盛大な拍手とともにDr.エルンスト・エーリヒ・シュテンダー氏に花束が贈られました。今回のコンサートは、ウクライナ人道支援チャリティコンサートとして開催したもので、来場者から寄せられ

た募金296,816円を全額「日本赤十字社」に寄付しました。
※リュベックはバルト海に面した古い美しい港町で、中世のハンザ同盟都市です。リュベックはドイツを代表する作家トーマスマンの生まれ育った町でもあります。

奏者 Dr.エルンスト・エーリヒ・シュテンダー氏 挨拶 (日本語訳)

皆さま こんにちは。
 私は、エルンスト・エーリヒ・シュテンダーと申します。私は、北ドイツのリュベック※という町から参りました。私が今日演奏して皆さまにお聞かせする曲は、バッハの有名なトッカータと日本の曲です。
 最後には、皆さまも良くご存知のベートーヴェンの交響曲第5 運命 を演奏します。オルガンは皆さまに音楽の楽しみを広げてくれるはずで、
 では私の演奏を楽しんでください。

●演奏曲目

J.S. バッハ 作曲	トッカータとフーガ ニ短調 BWV565
L.V. ベートーヴェン 作曲	運命 交響曲 第5番 ハ短調 op.67
E. エルガー 作曲	威風堂々 作品39-1
滝 廉太郎 作曲/児玉 麻里 編曲	荒城の月
山田 耕筈 作曲/三枝 成彰 編曲	この道
南 能衛 作曲/三枝 成彰 編曲	村祭

ジョージ・ガーシュウィン 作曲	ス・ワンダフル
伊福部 昭 作曲	ゴジラのテーマソング
村井 邦彦 作曲	翼をください
古関 裕而 作曲	とんがり帽子
モンシ、レイトヴィン、タクレ 作曲	命の力
平井 康三郎 作曲	大妻学院校歌

2022年度春の花植え(アダプト)活動報告

6月23日(木) 午前、大妻女子大学家政学部児童学科の学生118人と教員・助手、九段小学校、九段幼稚園、地元の三番町町会、(株)プランナー・ワールド、子育て広場「あい・ぽーと麹町」、千代田区社会福祉協議会と本学地域連携推進センター職員が連携・協力し、午後には大妻中学高等学校園芸部の生徒16人と顧問、大学教員が、三番町町内周辺の歩道の街路樹下の植樹樹(ます)に花植えを行いました。

「番町学園通り」「大妻通り」に設けられた約100カ所の植樹樹(ます)は、マリーゴールドやポーチュラカ、ニチニチソウ、トレニアなど約2,500株の花で鮮やかに彩られました。

花植え活動中、通りかかった外国の男性から「よい活動だ」とお褒めの言葉をいただきました。6月末から猛暑となりましたが、花が枯れないように、アダプト参加者が定期的に水やりを実施しています。

千代田区ホームページ「アダプトシステム」 <https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kurashi/volunteer/adapt.html>



令和4年度プロジェクト始動

「地域連携プロジェクト」「地域貢献プロジェクト」採択通知授与式を開催

「地域連携プロジェクト」「地域貢献プロジェクト」採択通知授与式及び事務説明会が、6月18日（土）に千代田キャンパスで行われました。

今年度は地域連携プロジェクトに18件、地域貢献プロジェクトに3件の応募があり、審査の結果、すべてが採択されました。

伊藤正直理事長・学長の挨拶の後、小川浩地域連

携推進センター所長から、今年度の審査方針と変更点について説明がありました。国立研究開発法人科学技術振興機構「産学官連携ジャーナル」編集長で、外部評価委員である山口泰博氏からの講評では、今後のテーマとして、SDGsやジェンダー問題を取り入れてはどうかなど、プロジェクトのテーマの選び方についてのアドバイスがありました。

【地域連携プロジェクト】採択一覧

採択者氏名	所属	採択課題
阿部 栄子	家政学部 教授	・和装振興プロジェクト ～伝えよう！和服の魅力～
石井 章仁	家政学部 准教授	・保育の魅力を保護者に伝えるための、少子化地域の行政との協働プロジェクト
石井 雅幸	家政学部 教授	・北海道美瑛町の公立学校の児童・生徒への教育支援
金田 卓也	家政学部 教授	・CHIYODA Creative ART Lab for Children 千代田クリエイティブ・アートラボ
木村 かおる	家政学部 常勤特任准教授	・科学技術館との地域連携活動プロジェクト「夏休み数楽教室、自由研究お助け隊」
厚東 芳樹	家政学部 准教授	・三番町アダプトフラワーロードの会との地域美化活動およびその活動を世界に広げよう
炭谷 晃男	社会情報学部 教授	・多摩ニュータウン南大沢40年CIプロジェクトと高齢者と子どもたちのエンパワーメント支援
細谷 夏実	社会情報学部 教授	・能登の里海を守る：海育実践と地域活性化プロジェクト
藏野 ともみ	人間関係学部 教授	・「高齢者聞き書き」で創る交流事業プロジェクト
丹野 真紀子	人間関係学部 教授	・医療的ケア児童のファミリーフォト展
千川 剛史	人間関係学部 教授	・気仙沼市における「ご当地グルメづくり」による復興支援活動
堀 洋元	人間関係学部 准教授	・学ぼうみんなのさいこうの笑顔のために
八城 薫	人間関係学部 教授	・からきだ匠（たくみ）カフェ ～地域がつながる場所～
山本 真知子	人間関係学部 准教授	・障害者雇用企業との連携による多摩祭Tボール大会の開催
田口 裕基	短期大学部家政科 専任講師	・香辛料・植物性素材を教材とした食育推進プロジェクト
富永 暁子	短期大学部家政科 准教授	・地域の多世代がつながるみそ作りプロジェクト
堀口 美恵子	短期大学部家政科 教授	・食と環境の調和に向けた食育の推進 ～産官学民連携による実現を目指して～
深水 浩司	教職総合支援センター常勤特任准教授	・地域に根ざす図書館認知症カフェプロジェクト

【地域貢献プロジェクト】採択一覧

採択者氏名	所属	採択課題
岩瀬 靖彦	家政学部 教授	・子育て世帯を食で支えるプロジェクト
樺山 敏郎	家政学部 教授	・小学校の読書活動推進への貢献を図る学生ブックソムリエの展開
川口 美喜子	家政学部 教授	・健康への食意識向上の情報とがんを支える期間限定「がんと健康的な食事・食べ方通信」の定期的配布と取り組み



伊藤正直理事長・学長挨拶



採択通知授与



山口泰博外部評価委員（国立研究開発法人科学技術振興機構「産学官連携ジャーナル」編集長）による講評

地域連携活動

雨にも負けず「大妻みちあそび」を開催

7月16日(土)に、幼児・児童向けの子育て支援講座「大妻みちあそび」を3年ぶりに開催しました。千代田キャンパスの校舎と校舎の間の公道で、午前と午後の2時間ずつ、約140人の子どもたちが児童学科の学生や教員と一緒に遊びました。

地域の子どもや大人が集い、楽しみ、交流できる機会をつくり、子どもが健康的に屋外で遊ぶ機会、人とかかわって遊ぶ機会を提供、子どもと大人が年齢・家族の区別なく、親しみ合い、くらしの中で支え合えるような関係を地域の中で生み出すきっかけをつくることを趣旨としています。

雨が降り続くあいにくの天気でしたが、子どもも学生も歓声を上げて楽しんでいました。午前に参加して楽しかったからと、引き続き午後も参加する子どもも少なくありませんでした。水鉄砲、ビニールプールでの水の掛け合い、スーパーボールすくい、卓球、フラフープ、ビーチボールでのサッカー、輪投げ、チョークで道に落書きなど思い思いに楽しんでいました。特に水鉄砲は大人気、子どもも学生もびしょびしょになりながら、元気いっぱい走り回っていました。モップでチョークを消す片付け作業も、子どもたちは積極的に参加してくれました。



「夏休み小学生講座」を開催

8月10日(水)、地域の教育支援を目的として、夏休み小学生講座2022「理科実験教室」「工作・体験教室」を3年ぶりに開催、63名の小学生が参加しました。いずれの講座も、各講師の指導のもと、大妻女子大学の学生が参加者をサポートしました。

参加した小学生は、みんな好奇心いっぱいで、目を輝かせ、真剣に、楽しそうに、取り組んでいました。講師のアドバイスを聞き漏らさないように、手元を見逃さないようにと、自然と身を乗り出している姿や、講師を取り囲んでいる姿が印象的でした。

夏休み自由研究・工作なんでも相談室

[講師]大妻女子大学 家政学部 児童学科 金田卓也教授

理科実験教室

①黒点フレア観察

[講師]大妻女子大学 家政学部 児童学科 金美京常勤特任講師

②化石掘り体験～火山灰を調べよう

[講師]大妻女子大学 家政学部 児童学科 木村かおる常勤特任准教授

③昆虫標本を作ろう

[講師]大妻女子大学 家政学部 児童学科 石井雅幸教授

④自由研究のまとめをお手伝い

[講師]大妻女子大学 家政学部 児童学科 石井雅幸教授

工作・体験教室

①スパイスによる染色体験や米袋を使って工作

②スパイス・ハーブをミックスして独自のカレー粉を作成

[講師]大妻女子大学短期大学部 家政科 食物栄養専攻 堀口美恵子教授、田口裕基専任講師

